

蛇岩谷のトケビ

これは、富錐の爺さんのそのまた爺さんの体験談だよ。この爺さんは、とにかく力の強い人で、普通の人を二、三人は軽く飛ばしちゃうくらいの人だった。

ある日、この爺さんが市場の帰りに、蛇岩谷（ブエンバーコル）の坂をのぼっていると、後ろから「兄さん、兄さん、一緒に行こうよ」という声がするから、よりかえってみると何も見えない。不思議に思ったけど、とにかく怖いから答えずに歩き続けた。

ところがまた、後ろからしきりに「兄さん、兄さん、一緒に行こうよ」という声がする。爺さんは勇気をだして「一緒に来たけりや、この牛にのりな」っていったんだ。

そうして、そいつが乗ろうとした瞬間、そいつをギッチリ掴んで、牛のジル（くびき）に縛りつけた。

そうすると、そいつが「ああ、兄さん、あたしだよ、あたしだよ。放しておくれ」って、大声で泣きながら、悲鳴を上げたんがって。

爺さんは、間かないで、家まで帰って、その話を家の者にしたんだ。

その次の朝、家の者がジルを調べてみると、そこには使い古しの塀が一つ縛られていたって。（語り手：南舜朝・1910生まれ）